

令和6年7月22日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 大 野 廣 介
教育委員会評価委員会委員 岸 本 敬 仁

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（令和5年度事業対象）
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。令和5年度においては、既存事業の実施や拡充などを行いながら、新規事務事業にも鋭意取り組んでいることがうかがえる。

今後も、下記の点に留意し、創意工夫のもとに事務事業に取り組まれない。

記

- 1 学習支援ボランティアについては、町内立地大学の協力を得て実施できている。教員を目指す学生が町立学校に協力できるとも良い事業である。学園都市の立地を生かし、各大学の協力を得て、今後もより多くの大学との連携に努められたい。
- 2 人権作品集については、教員の働き方改革や諸事情により、冊子での作成は終了するということであるが、WEB掲載になっても、読んでもらえる工夫をいただきたい。人権教育の重要性に鑑み、歴史のある作品集であったので、作品集に込められていた関係者、読者のみなさんの思いが継承されるよう、これからも作品集の作成に取り組んでいただきたい。

- 3 スクールソーシャルワーカーについては、学校における不登校、いじめ問題に対処すべく、さらなる活躍を期待する。諸問題を解決して子どもたちが生き生きと学校に登校できるよう取り組んでいただきたい。
- 4 財政状況が厳しい中、各学校から上がってくる修繕要望等、適時適切に改修対応をお願いしたい。東小大規模改修工事の完了、全校のトイレ洋式化工事の完了など、学校施設の環境改善の事業は評価できる。経年劣化している施設を長く使用できるよう、今後も環境を改善するための事業を継続的に実施していただきたい。
- 5 子どもたちの居場所づくりとして実施している中学校放課後自習室では、参加者が伸び悩んでいるが、各施設で開放している自習スペースは多く利用されている状況である。塾などを利用していない子どもたちにとっては価値のある取り組みであるため、実施形態について検討をいただきたい。
- 6 熊取町こども会育成連絡協議会に加盟する団体が減少しているなかで、加盟はしていないが、各地区で活動している子ども会はあるため、協議会加盟の有無に関わらず町内全ての子どもたちに対する支援を検討いただきたい。
- 7 熊取町文化ホール建設を機に発足した熊取吹奏楽団において、今後、楽器を所有していないが音楽を始めたい子どもたちが楽器に触れることができる機会の創出を望む。
- 8 本格的な音楽コンサートの実施が可能な文化ホール施設が完成したことは喜ばしい。今後この施設を文化発信拠点として活用することを期待する。
- 9 スポーツフェスティバルについては、町民のみなさんが体を動かすきっかけづくりとなるよう、総合体育館指定管理者とも連携しながら、楽しく集えるイベントとしての開催を期待する。
- 10 「わたしの好きな本を紹介します」や「本のPOP」は、子どもたちが本の面白さをアピールできる良い取り組みである。貸出冊数は、減少傾向ではあるものの、図書館の来館者数は、貸出者数の1.6倍であることから、今後もより多くの方に足を運んでいただけるようなサービスや事業の創出に努められたい。